

令和6年度「奇跡の復興米」

取組紹介

ひがしにほんだいしんさい ひさいち おおつち とんだばやし つな
東日本大震災の被災地・大槌町と富田林市を繋ぐ

きせき ふっこうまい

奇跡の復興米

その苗は、東日本大震災で被災した岩手県大槌町でガレキの中から見つかった3株のイネを源流にもちます。津波を奇跡的に生き残り、海水を被った土地でも成長したその生命力を、被災の記憶と共に後世に伝え、防災の重要性を考えていく取組です。



富田林市・富田林市立小学校
JA大阪南・JA大阪南青壮年部
がこの取組みに参加しています

富田林市「奇跡の復興米」を紹介するウェブページのURL

「奇跡の復興米」バケツ稲栽培セット
バケツに貼り付けたシールのイメージです

2024年6月 NPO法人遠野まごころ ネット様より田植えに寄せてのお手紙

「奇跡の復興米の田植え」メッセージ
(喜志っ子の皆さん)

奇跡の復興米栽培委員会、JA 大阪南青年部、壮年部、喜志町内会そして喜志っ子の皆さんこんにちは！

6月に入り、喜志地域の田畑の緑も一段と深まっているように感じられますが、ご参加の皆さんもお元気で活躍のことと思います。

13年前の東日本大震災で大きな被害を受けた大槌町の復興のために富田林市や喜志町内会の皆さんからご支援をいただき、大槌の町民は大変感謝しております。

6月2日は、喜志町内会はじめ喜志っ子の皆さんとともに「奇跡の復興米」の田植えが行われるとお聞きました。

私も皆さん方と一緒に田植えをしたかったのですが、残念ながら参加する事ができず申し訳ございません。代わりにメッセージをお送りします。

皆さん方が田植えをする稲は、2011年3月に発生した東日本大震災の大津波で大槌町が流されてしまいました。しかし、全て無くなった住宅の跡地に、奇跡的に生きていた3株の稲穂から育てた大切な稲です。

2014年、そのうちの1キログラムを吉村富田林市長様が、大槌町の復興を支援したいと富田林に持ち帰ったことがきっかけです。

その後、富田林市、JA 大阪南、貴志町内会、貴志町子ども会の方々が愛情を込めて育て上げ、お陰様で今では「奇跡の復興米」というブランド名までつけていただきました。

これからも「奇跡の復興米」を通じて富田林市と大槌町の絆をより一層深めていただきますよう願います。

本日、笑顔で田植えをされた田んぼが、今年の秋にはたわわに実った稲穂が黄金色に染まることを想像しております。

今年の稲刈りには是非、私も参加させてください。

2024年6月2日

NPO 法人遠野まごころネット

理事 白 澤 良 一

喜志っこクラブの田植え風景



喜志小学校の田植え風景



東条小学校の田植え風景



新聞各誌に記載されました

産経新聞 6/9

「奇跡の復興米」おいしく育って

東日本大震災 被災地・大槌町との絆



「奇跡の復興米」の苗を植える子供たち—富田林市

平成23年の東日本大震災を忘れず、被災地と絆を強めようと、富田林市の子供たちが「奇跡の復興米」といわれる岩手県大槌町の「大槌安渡ひとめぼれ」の苗を市内の水田に植えた。収穫の一部は大槌町に贈る。

田植えは今年で11回目。子供約90人を含む関係者約150人が参加した。苗は26年に復興支援のお礼に贈られた種もみから育てたという。子供たちは靴を脱ぎ、水田へ。10分ほどの苗数本を束にして植えると、苗が浮

富田林の子供ら、今年も田植え

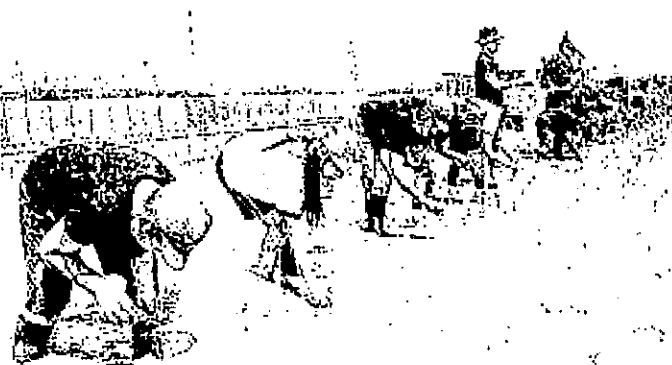
毎日新聞 6/7号

子どもら「復興米」田植え

富田林 東日本大震災の被災地支援

東日本大震災を忘れず被災地と絆を強めようと、富田林市の子どもたちが3日、「奇跡の復興米」といわれる岩手県大槌町の「大槌安渡ひとめぼれ」の苗を市内の水田に植えた。収穫の一部は大槌

町に贈る。田植えは今年で11回目。子ども約90人を含む関係者約150人が参加した。苗は2014年に復興支援のお礼に贈られた種もみから育てたという。この日、子どもたち



「奇跡の復興米」の苗を植える子どもたち—富田林市で

は靴を脱ぎ、水田へ。10分ほどの苗数本を束にして植えると苗が浮いてこないよう人さし指と中指で苗の根を優しく押さえた。市立慈志小5年の豆田百日花さん(10)は「大槌町のみんなにおいしく食べてもらいたいです」と笑顔だった。奇跡の復興米は、大震災で津波に襲われた大槌町の住宅跡で見つかった稲穂3株から、同県遠野市のNPO法人「遠野まごころネット」が種もみを増やした。富田林市では、市内の市民団体に同法人から種もみが届いたことをきっかけに、地元農協などをつくる栽培委員会が毎年、育成し

インターネットニュースサイトにも掲載されました

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に**新規取得**
ログイン 🔥 **【おトク】15%OFFクーポンあります**

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

エキスパート

オリジナル

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

児童ら「奇跡の復興米」で田植え 被災地との絆、大阪・富田林

2024/6/3(月) 14:59 配信



「奇跡の復興米」の苗を植える子どもたち=3日午前、大阪府富田林市

東日本大震災を忘れず被災地と絆を強めようと、大阪府富田林市の子どもたちが3日、「奇跡の復興米」といわれる岩手県大槌町の「大槌安渡ひとめぼれ」の苗を市内の水田に植えた。収穫の一部は大槌町に贈る。

田植えは今年で11回目。子ども約90人を含む関係者約150人が参加した。苗は2014年に復興支援のお礼に贈られた種もみから育てたという。

この日、子どもたちは靴を脱ぎ、水田へ。10センチほどの苗数本を束にして植えると苗が浮いてこないよう人さし指と中指で苗の根を優しく押さえた。市立喜志小5年の豆田百日花さん（10）は「大槌町のみんなに美味しく食べてもらいたいです」と笑顔だった。

教育田

6月、管内各地の教育田などで田植え体験や見学を行いました。初めて苗を植える小学生も多く、地元協力農家や職員らに指導を受けながら真剣に苗を植えました。児童は「田植えは大変だったけど、楽しかった」などの感想がありました。今後も子供たちへの食農教育を進めていきます。



大府狭山市立第七小学校



美原区古代米プロジェクト



大府狭山市立東小中学校



河内長野市立大野小学校



富田林市立東小中学校



大府狭山市立南第一小学校



藤井寺市立道明寺南小学校



河内町立かみき小学校



太子町立山田小学校



大阪狭山市立小中学校



富田林市立藤原小学校



デラウェア 目揃い会

5月21日、太子支店と駒ヶ谷支店で令和6年度葡萄出荷会議及び目揃い会を開催しました。出荷組合員をはじめ、関係市場12社、全農大阪府本部、JA大阪南出荷関係職員が出席しました。令和6年度の出荷計画をはじめ、生産者から今年の生産情報、市場関係者から今年の市場情勢などが報告されました。



「奇跡の復興米」稲刈りにあわせて

数えて1回自となります。「奇跡の復興米」稲刈り
おめでとうぶいいます。

今年を振り返ると、田々丈自然に振りまわされ
ている甘日だったように思っています。

元旦におきた新潟県の津波に始まり、そして
日本列島は台風に振りまわされている事を、非
んく思っています。

そして、白えんが桑くすに集まっている稲刈りが
「どうも、まだ天気があそくが……」と願っていました。

また、白えんが自こた「奇跡の復興米」のルーツは、
今からは新潟、東日本大震災以後、津波で流され
た戦家の玄閑跡地に3株の、やせこけた稲が
育つといった事から、はじまりました。

私がお肉った集落は、漁師町で、田んぼはなく
児童生徒健達には、白えんのあそくに稲と育つ事も
体験しています。

白えんは、「奇跡の復興米」の、すばらしい体験に
感謝し、日本の和食文化の「白いごはん」と、今晚
ゆーり味あそみるは、如何でしょうが。

そして、多くの皆様におつかれ様と感謝と申し
す、挨拶といたします。

二十四年 九月吉日

新潟県文藝所

菊池 妙

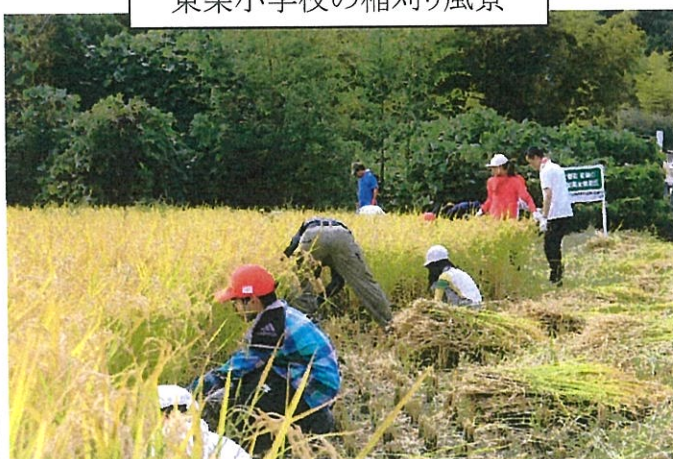
ほっとスペースの稲刈り風景



喜志小学校の稲刈り風景



東条小学校の稲刈り風景



富田林市で行われた「奇跡の復興米」の稲刈り



黄金色「復興米」刈り取り 富田林で児童ら

富田林市で、東日本大震災で津波被害に遭った岩手県大槌町ゆかりの「奇跡の復興米」（大槌安渡ひとめぼれ）の稲刈りが行われた。地元児童約70人や市職員らが参加、手植えした苗が育ち、実った稲穂が黄金色に輝いているのをうれしそうに刈り取った。

奇跡の復興米は、津波に襲われた大槌町の民家の跡で見つかった稲がルーツ。2014年に復興

支援のお礼として富田林市の民間団体に種もみが贈られ、市や地元農協、児童らが毎年育てている。

初めて稲刈りしたという小学5年生の児童(11)は「稲が少し堅かったけど楽しかった。大槌町のみんなに美味しく食べてもらいたい」と話した。今年は1500㌦の収穫を見込み、300㌦は大槌町の学校給食に使われる。

奇跡の復興米 今年で11年目。

当JAと富田林市「岩手県大槌町奇跡の復興米」栽培委員会は、9月8日、富田林市喜志町内の圃場で、復興米の稲刈りを行い、地元の親子連れらが参加しました。

刈り取る稲は、2011年3月に発生した東日本大震災を生き延びた稲をルーツとする「奇跡の復興米」。緑があって当JAで種もみから苗を栽培し、震災を風化させない取り組みを始めて今年で11年目となります。この日はJA役職員、地元関係者らも参加し、参加者らをサポートしました。収穫されたお米の一部は、大槌町へ贈られ学校給食で提供されるほか、稲わらは大阪市の天王寺動物園へ寄贈し、動物たちの寝床などに利用される予定です。





復興米の稲わらを 天王寺動物園へ贈呈

02

12月9日、富田林市「若手県大福町奇跡の復興米」栽培委員会が栽培指導し、管内の小学生が育て収穫した後の稲わら200kgを天王寺動物園へ贈呈しました。

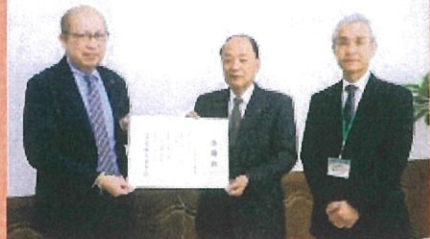
奇跡の復興米は、東日本大震災で被災した、がれきの中から見つかった3株の稲穂を復興のシンボルとして育てられたもので、当JAでは、内本直哉代表理事組合長を委員長とする栽培委員会が毎年栽培を行っています。贈られた稲わらは、主に動物の敷き床に使用する予定です。今後も管内各地区で、地元団体や同JA青壮年部の協力で復興米の栽培指導を行い、震災を風化させない活動を継続していきます。

NEWS & TOPICS

ニュース&トピックス

大阪市より感謝状

12月9日、大阪市中央卸売市場・東部市場に数年にわたって市場の発展と市民の食生活の安定と向上に寄与した功績が評価され、大阪市から当JAに感謝状が贈られました。



青壮年部 JA青年大会

03

1月17日、和歌山県JAビルで「令和6年度近畿地区JA青年大会」が開催され、河内支部の月塚弘樹さんが、大阪府代表として「青年の主張」をスピーチし、優秀者に選ばれました。月塚さんは、福祉施設への転職を機に、農業と出会い、人が農業に関わることで成長することを目の当たりにして、「農福連携」への取り組みの重要性に気づき、現在は青壮年部の一員として活動しています。発表後、月塚さんは「課題解決にむけ、これからも情熱を持って地域活動に参画していきたい。」と話しました。

女性大学 資産運用

女性大学は、1月9日、本店2階会議室で、資産運用講座を行い、12名が参加しました。

資産運用の基本や新NISAなどについて詳しく説明し、将来のお金について考える機会になりました。



女性大学 寄せ植え

04

女性大学は、12月12日、本店2階会議室で、寄せ植え講習会を行い、18名が参加しました。

参加者は、講師のアドバイスを受けながら、クリスマスとお正月にピッタリなかわいいリースの寄せ植えを完成させました。



2月7日 社会福祉法人 大阪福祉事業財団高鷲学園



JA大阪南青壮年部が、地元でとれた野菜とともに奇跡の復興米をプレゼントしました。